Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-24

神戸大学大学院医学系研究科循環動態医学講座循環呼吸器病態学分野(旧第一内科)(教室だより)

谷口, 隆弘

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌, 18:135-136

(Issue Date)
2002-08

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007767

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007767

KOBE UNIVERSITY

教室だより——

神戸大学大学院医学系研究科
循環動態医学講座循環呼吸器病態学分野（旧第一内科）

谷　口　隆　弘（55年卒）

本教室は1944（昭和19）年の兵庫県立医学専門学校の設立以来の伝統ある内科学教室で，初代中院孝圓教授，２代目友松達弥彌教授，３代目福﨑恒教授を経て1990（平成２年）年に４代目横山光宏教授が就任し大きな飛躍の時を迎えています．教室名は，昨年の大学院講座化により循環呼吸器病態学と研究分野を示す教室名になりました．教室開設以来，循環器，呼吸器疾患の診療，教育，研究に携わっています．循環器では，虚血性心疾患，不整脈，心筋症，弁膜症，心不全，高血圧，動脈硬化・高脂血症などすべての領域をカバーし，また，CCU を有して，積極的に急性心筋梗塞などの急性循環器疾患の治療を行っています．一方，大学病院としての特長を生かし，各種循環器疾患の遺伝的素因・背景などの解析も行い，患者様への情報のフィードバックを試みています．呼吸器でも，気管支喘息，間質性肺炎，肺癌を中心に幅広い領域をカバーしております．

2001年でみますと，年間入院患者は681名で，その内訳は，心筋梗塞93名，狭心症111名，不整脈117名，心筋症62名，肺癌79名などです．年間 CCU 入院患者数150名で，カテーテルによる治療も積極的に行い，2001年には CAG を539例，PTCA を160例に行い，うち125名にステントを施行しました．ステント，DCA，ロータブレーター等すべての new　device を積極的に用いるとともに，ショックを伴う重症例では，IABP，経皮的心肺補助装置を用い救命率を向上させています．また，心臓血管外科との緊密な連携・協力体制により，カテーテルインターベンションによる治療と外科的治療とのバランスのとれた治療を行っています．一方，不整脈に対する治療も重視し，年間カテーテルアブレーション47例，ICD 植え込み６例を施行しています．慢性心不全の治療にも力を入れており，拡張型心筋症に対するβ遮断薬療法を，本邦でもっとも早期から導入しております．呼吸器検査では，気管支内視鏡を年間165例施行しています．

本年２月の新病棟への移転に伴い，循環器内科は７階北（47床）に，呼吸器内科は６階北（18床）に引っ越しいたしました．CCU もこれまでの３床から４床に増床されましたので担当医師を増員して対応しております．

横山教授の掲げる教室の基本理念として，科学的なものの考え方と探求心，問題解決能力の養成を重視しています．また，最先端の知識と技術を身につける一方で，医の心を持つ人間性豊かな医師であることを求めています．さらに，視野の広い国際性を身に付けるように，海外留学を積極的に奨めており，常時10名ほどが留学中です．

研究に関しては，専門分野の循環器・呼吸器の診療



の中から問題点をみつけ，診断と治療の開発や，病因・病態の解明に結びつけるような，いわゆるtranslational researchを目指しています．現在の研究テーマは①循環器疾患における遺伝的背景に関する研究，②心臓核医学検査を用いた心疾患の診断と病態に関する研究，③血管機能に関する薬理学的，分子生物学的研究，④心不全，心肥大の分子生物学的研究，⑤動脈硬化症の分子生物学的研究，⑥心電図，不整脈ならびに臨床電気生理学に関する研究，⑦気管支喘息の病態に関する基礎研究，⑧間質性肺炎の成因と治療に関する研究，⑨肺癌の遺伝子治療，⑩虚血性心疾患と心不全の病態生理・治療に関する研究，⑪高血圧症の分子遺伝学的研究，⑫心筋症，心エコー図に関する研究⑬放射光医学の循環器学への応用など，臨床から基礎研究まで幅広い分野で多くの業績をあげ，国際的にも高い評価を得ています．

以上のように本教室の臨床，研究面での近況を報告させていただきましたが，学生教育と研修医・医局員の教育においても，教官全員が全力をあげて取り組んでおります．学生や若手の教室員が夢を持って仕事に取り組めるような環境を整備していきたいと考えております．